



町への帰還に向けての想いは 仮設・借り上げ住宅の供与期間終了が近づくと

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により、震災後から今もなお仮設住宅や借り上げ住宅での避難生活を余儀なくされています。
平成29年3月末をもって仮設住宅と借り上げ住宅の供与期間が終了し、町へ帰町する方も増えてくると思われまます。
現在も仮設・借り上げ住宅に住んでいる方の帰還に向けての想いをお伺いしました。



大和田 雅一さん
(上北迫)

避難生活が6年目になり、震災の復興・復旧は感じられますが、原発事故の不安はまだ頭の片隅にあります。それでも町には商業施設や学校などが再開し、住みやすい環境が整備されていると感じます。
私の家族は、帰町を考えていますが、安全・安心はもとより、これからの広野町が震災前以上に魅力ある町になることを願っています。



高木 学さん
(上浅貝川)

借り上げ住宅の支援策が終了しますが、子どもたちの学習環境を変えたくないこと、持病を抱える子どもたちの通院を考えると、このままいわき市に残る予定です。
具体的に戻る用途は立っていませんが、将来は町に戻る予定です。
子を持つ親からすると、小児科などの子ども医療が町内や近隣に充実すれば帰町を選択する子育て世帯が増えるのではないかと思えます。

編集後記

「一年の計は元旦にあり」と言われるように、誰もが希望と幸せを願って平成29年の幕が明けました。

私たちも6日の新春交歓会、8日の成人式、15日の消防出初式に来賓として出席するなど町の行事も着々と動き始めました。
その中でも成人式は、とても新鮮な気持ちに浸かる瞬間でもあります。

生を安心して暮らしていける環境を作ること、それが今の社会を構成している私たち大人の責任でもありません。

私たち議会議員も更に研鑽を積み、新しい気持ちで議会活動に取り組んでいこうと思っています。

(塩 史子)



冬を彩る水仙

発行・編集責任者

議長 黒田政徳

広報委員会

- 委員長 塩 史子
- 副委員長 阿部憲一
- 委員 北郷幹夫
- 委員 小磯利雄
- 委員 遠藤 浩

次の定例会は3月です